

第7回定期委員会 委員からの主な発言

- ・多くの事象が頻発しており、職場でも議論となっている。責任をどこかに押し付けるのではなく、主体的に原因究明や対策を議論している。
- ・業務委託の拡大に対し、職場では「職場の将来をどのようにするのかという視点が必要」と訴えてきた。「トライアルで問題はなかった」という会社に対して職場の不安の声をぶつけてきた。
- ・会社は「チーム新幹線」と言いつつ、系統や担務ごとでグループ意識を醸成して社員の分断を凶ろうとしているのではないかと。幹協のような系統を越えた交流、連携を強化していきたい。
- ・「スマートメンテナンス」の施策が始まったが、当初言われていた目指す姿と実態がかけ離れてきていると感じる。夜勤や業務量が増加した人もいる。「何でもあり」の会社姿勢に疑問を感じる若手が増えている。
- ・人員が減らされ、技術継承に課題を抱える中でもし線路モニタリング車が使用不能になった場合、必要な代替作業を本当に人力で行えるのか疑問がある。
- ・コロナ禍の時期に削られた修繕費が現在も戻ってきていない。コロナ前に行っていたメンテナンスのうち、できなくなったものもある。時期的に最近の車両故障との関連が疑われると感じている
- ・G編成は導入当初から車両不具合が頻発し、お客さま、社員からの信頼を失いかけている。
- ・NFB やスイッチ扱いなど、車両不具合への対応を乗務員に求めすぎていると思う。もし乗務員が取り扱いを忘れて事象が発生した場合、責任を乗務員に押し付けようとしているのではと感じている。
- ・3021B が列車分離したとき、翌日には当該列車に乗務していた組合員をフォローするため仲間が集まり、原究を開くことができた。当該の組合員は「指令の指示に追われて十分なお客さま案内が出来なかったことが心残りだ」と心境を語ってくれた。
- ・職場代表選挙では残念ながら代表の座を得ることはできなかったが、組合員数以上の多くの投票があった。会社の暴走を許さない為にも今後も運動を継続していきたい。
- ・職場代表選挙では未加入者にも共感してもらえるテーマを打ち出して運動、議論を展開した。
- ・「安全」を打ち出して分会総体で職場代表選に臨み、勝利することが出来た。
- ・女性設備の改善について、未加入者からも改善を実感できたという声を聞くことが出来た。
- ・職場環境が変化しているのに、設備がそこに対応できていない。新たに入った設備やシステムに使いづらい点がある。現場の声を聞きながら導入を進めてもらいたい。
- ・武蔵小金井駅での暴行事件に対しての会社姿勢に怒りを感じる。会社が望むような社員でなければ、暴行や処分を行ってもよいのか？
- ・職場に情報が入ってこない現状がある。現場を信じない、上から押さえつける管理で安全は作れない。会社自身が安全を阻害しているという思いが強くある。・・・等々

皆さんの発言を元に、今後会社に申し入れを行います！